

## 小学校第4学年音楽科学習指導案

### I 題材名 曲の気分を感じ取ろう

教材名 【歌唱】赤いやねの家 織田ゆり子作詞／上柴はじめ作曲  
【器楽】オーラリー 阪田寛夫日本語詞／ジョージ・プルトン作曲  
長谷部匡俊編曲  
【鑑賞】「パールギュント」第1組曲から「山の魔王の宮殿にて」 グリーグ作曲

### II 大会主題との関わり

【本時で変容した児童の姿】

音楽を形づくっている要素に気付き、感じ取った曲の特徴について友だちと感じたことを交流しながら学びを深め合い、主体的に鑑賞する児童の姿。

### III 本時の視点

音楽を形づくっている要素を基に、友だちと感じたことや気付いたことを交流する活動は、主体的に鑑賞し、新たな発見をしたり曲の解釈を深めたりしながら想像豊かに聴く喜びを味わう上で有効であったか。

### IV 考察

#### 1 題材観

本題材における学習内容の学習指導要領上の位置付けと、本題材で扱う主な音楽を形づくっている要素は、以下のとおりである。

A表現(1)歌唱	イ	歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。
	ウ	呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌うこと。
(2)器楽	イ	曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。
	エ	互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。
B鑑賞(1)	ア	曲想とその変化を感じ取って聴くこと。
	イ	音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。
	ウ	楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。

本題材で扱う主な音楽を形づくっている要素

音色 速度 旋律 強弱 音の重なり 拍 フレーズ 反復 変化

本題材では、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏したり、曲想とその変化を感じ取って想像豊かに聴いたりすることをねらいとしている。

本題材で扱う教材は、以下のとおりである。

「赤いやねの家」は、本校で下校時刻に流れる音楽であり、児童にとって親しみのある曲である。また、歌詞の表す情景や主人公の気持ちを想像しやすく、自分が幼かった頃に思いを馳せて共感しながら歌うことができる。

「オーラリー」は、1861年にアメリカで発表された愛唱歌である。この曲は、二部形式でできており、前半部分と後半部分の曲想の違いに気付きやすく、フレーズを意識しながら曲想表現を工夫して演奏することができる。

「山の魔王の宮殿にて」は、主な旋律が何度も反復するため、覚えやすく親しみやすい楽曲である。また、速度や強弱の変化が分かりやすく、それらの働きが曲想の変化を生み出していることを感じ取りやすい。曲の冒頭部分は静かで不気味な雰囲気であり、次第に楽器の数と音量が増し、終わりの部分に向かって曲が速くなるので、主人公ペールが山の魔王の宮殿に立ち入った後にどうなったか、場面や様子の変化を想像しやすい。

児童はこれまでに、旋律や音の重なりを感じ取ったり、楽器の音色の違いを感じ取ったりする鑑賞の活動を行ってきた。それらを踏まえて、本題材では、音楽を形づくっている要素に着目し、感じ取った曲の特徴について仲間と思いを交流しながら学びを深めていく。このような活動を通して、曲想とその変化を感じ取って想像豊かに聴いたり、主体的に鑑賞したりすることができるようになると考え、本題材を設定した。

なお、本題材の系統は、以下のとおりである。

学年	題材名・内容	主な音楽を形づくっている要素
第3学年	「音を合わせて楽しもう」 ・旋律の重なりや強弱の変化を感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴いたり演奏したりする。	音色 旋律 強弱 音の重なり 反復 変化
第4学年	「曲の気分を感じ取ろう」 ・歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫して、思いや意図をもって演奏したり、曲想とその変化を感じ取って想像豊かに聴いたりする。	音色 速度 旋律 強弱 音の重なり 拍 フレーズ 反復 変化
第5学年	「心をこめて表現しよう」 ・歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫して、思いや意図をもって響きのある声や音で演奏する。	音色 旋律 強弱 音の重なり 調 拍の流れ フレーズ 変化 音楽の縦と横の関係 スラー

## 2 児童の実態（男子 16名・女子 9名 合計25名）

本学級の児童は、鑑賞の授業に興味関心を持ち、曲想を自分なりに解釈して楽しみながら活動できる児童が多い。1学期に行った「パパゲーノとパパゲーナの二重唱」の学習では、男声と女声の違いや掛け合いと声の重なりを感じて聴き取ることができた。

また、鑑賞をする際に速度や強弱の変化に気付いたり、情景を想像しながら自分の考えをもって聴いたりすることのできる児童も多い。本題材では、リズムや楽器の音色の特徴を捉えて、音楽を形づくっている要素が曲想に影響を与えていることに気付き、想像豊かに聴く喜びを味わったり主体的に鑑賞したりすることができるように児童を育成していきたい。

## V 目 標

- 歌詞の内容や曲想とその変化に関心を持ち、進んで表現したり聴いたりしようとしている。【関】
- 歌詞の内容や曲想を生かした表現について思いや意図をもっている。【創】
- 歌詞の内容や旋律の曲想を感じ取り、曲にふさわしい表現で歌ったり演奏したりしている。【技】
- 曲想とその変化を感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて想像豊かに聴いている。【鑑】

## VI 評価規準

ア. 音楽への関心・意欲・態度	イ. 音楽表現の創意工夫	ウ. 音楽表現の技能	エ. 鑑賞の能力
① 歌詞の内容や旋律の特徴にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に取り組もうとしている。	① 歌詞の内容や旋律の特徴を感じ取り、自分の意図や思いをもちながらふさわしい表現を工夫している。	① 歌詞の内容や旋律の特徴から曲想を感じ取り、それにふさわしい表現で歌ったり演奏した	① 旋律の反復、速度や強弱の働きが生み出す曲想とその変化を感じ取り、それを

② 楽曲全体にわたる曲想とその変化を味わって聴く学習に進んで取り組もうとしている。		りしている。 ② 互いの楽器の音や旋律を聴きながら、自分の音を合わせてリコーダーを演奏している。	友達と話し合うなどして楽曲の特徴や演奏のよさを味わって聴いている。
---	--	---	-----------------------------------

## Ⅶ 指導計画 (全6時間 本時は6時間目)

過程	教材	時	学習活動	指導上の留意点
つかむ	赤いやねの家	1	○歌詞の表す情景や旋律の特徴から曲想を感じ取って歌う。	○1 オクターブの跳躍や高い音を無理のない発声で歌えるように部分的に取り出して練習させる。
		評価規準 (評価方法)	ア① (ワークシート・表情観察・演奏観察・発言内容)	
		2	○歌詞の内容や旋律の特徴に合う歌い方を工夫する。	○曲想にふさわしい表現ができるように大切にしたい言葉や歌い方の工夫など、楽譜に書き込ませる。
		評価規準 (評価方法)	イ① ウ① (ワークシート・発言内容・演奏聴取)	
追求する	オーラリ	3	○歌詞の内容や旋律の特徴から曲想を感じ取り、音色に気を付けてリコーダーで主な旋律を演奏する。	○教師がレガートな優しい演奏と一つひとつ途切れた演奏を示して聴き比べさせ、曲想に合った表現の仕方を考えられるようにする。
		評価規準 (評価方法)	ウ① (演奏聴取)	
		4	○二部合奏や二重奏をし、互いに聴き合いながら旋律が重なり合う響きの美しさを感じ取って演奏する。	○低音の息づかいやサミングの演奏方法を確認しながら、響きのある美しい二部合奏・二重奏ができるようにする。
		評価規準 (評価方法)	イ① ウ② (演奏聴取)	
まとめる	山の魔王の宮殿にて	5	○曲のはじめの部分を聴き、曲の感じをつかむ。 ○主な旋律を歌い、曲に親しむ。 ○「山の魔王の宮殿にて」の前までの「ペールギュント」のあらすじを知り、場面を想像したり曲の感じを捉えたりしながら曲全体を聴く。	○初めて曲の冒頭部分を聴かせるときは、曲名やあらすじを伝えずにどんな感じがする曲か感想を持たせる。 ○曲を聴いて、はじめ・中・終わりの部分でどんな場面を想像したかやどんな感じがしたかを自由に書かせ、全体で発表させる。
		評価規準 (評価方法)	ア② (ワークシート・行動観察・発言内容)	
		6 (本時)	○前時で曲を聴いたときになぜそのような場面を想像したのか、音楽を形づくっている要素と関連付けながらもう一度聴く。 ○二人組→全体で、友だちと交流し、友だちの気づきを基にもう一度曲を聴	○黒板に掲示した「音楽のもとカード」をもとにして、曲の特徴を捉えられるようにする。 ○発表するときは、発表の仕方カードを見ながら、自分が感じたことと聴き取ったことを結びつけながら発表できるよう

		く。	にさせる。 ○全体の発表の後に、児童の気付きを基にして曲の特徴をまとめる。
	評価規準 (評価方法)	エ① (ワークシート・発言内容)	

## Ⅷ 指導方針

(本題材を通して)

○曲の感じや気付いたことを自分の言葉で表現しやすくするように、全ての過程において児童が自分たちで作った「感じカード」「音楽のもとカード」を掲示し活用していく。

○本時で学習したことをめあてに沿って振り返らせ、何を学んだのかを自覚させ、次の学習につながられるようにする。

(つかむ過程では)

○旋律の特徴に合った歌い方ができるように、楽譜から旋律の変化と曲の山を考えさせる。

(追求する過程では)

○旋律が重なり合う響きの美しさを感じられるように、音色や音量のバランスに気を付けながら演奏させる。

(まとめる過程では)

○想像したことや感じたことと音楽のもとを関連付けて考えられるように、「なぜそのような感じがしたのか」と発問をし、音楽を形づくっている要素と結び付けていく。

## Ⅸ 本時の学習

- ねらい 音楽を形づくっている要素が生み出す曲想とその変化を感じ取り、友だちと交流して感じ取ったことを広げ、楽曲の特徴を味わって聴くことができる。
- 準備 ワークシート、前時の模造紙、感じカード・音楽のもとカード
- 展開

学習活動と児童の意識	時間	指導上の留意点	観点 評価規準 (方法)
1. 鑑賞の常時活動を行う。 ・「きらきら星」がどのように変化するか聴き取る。	5分	・曲の感じがどう変化したか、音楽のものと何が変わったかを感じ取らせるために「感じカード」「音楽のもとカード」を参考に考えさせる。	
2. 本時のめあてをつかみ、学習の見通しをもつ。	5分	・前時の復習をし、常時活動の内容と関連付けながら、児童とのやり取りの中でめあてを設定する。	
想像したことや感じたことと音楽のものとひみつを探ろう！			
3. 音楽のものとの中からどれが感じたことに繋がるのかを考えながら曲を聴く。 ・聴き取ったことをワークシートに記入する。	10分	・曲想を生み出している要素に気付くように、黒板に「音楽のもとカード」を掲示する。 ・「なぜそのような感じがしたのか」と発問することで、想像したことや感じたことと音楽のもとを関連付けて考えられる	

<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が想像した場面や感じたことと、その理由となる気付いたこと(音楽のもと)を線で結び付ける。</li> </ul>		<p>ようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>線で結び付ける時は、見通しを持てるように、曲のはじめの部分は、児童に意見を聞きながら全体で考える。</li> <li>線で結べないものがあったとしても良いということを助言する。</li> </ul>	
<p>4. 気付いたことを近くの友だちや全体で共有する。</p>	15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲の特徴を視覚的に捉えられるようにするために、児童の発表を聞きながら「音楽のもと」を仲間分けして板書する。</li> <li>必要に応じて意見が出た部分を聴かせ、確認させる。</li> </ul>	
<p>5. 曲を聴き、曲全体の特徴を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>魔王がせまってくる感じがしたのは、シンバルの音がだんだん大きくなっているからなのだ。</li> <li>曲の最後の方であせって逃げている感じがしたのは、曲の速さが速くなったからだったのか。なるほど！</li> </ul>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲の流れに沿って感じたことと音楽のものと関わりを感じ取れるように、板書をもとに全体で確認する。</li> </ul>	<p><b>鑑賞の能力</b> エ-① 旋律の反復、速度や強弱の働きが生み出す曲想とその変化を感じ取り、それを友達と話し合うなどして楽曲の特徴を味わって聴いている。 (ワークシート・発言内容)</p>
<p>6. 本時のまとめをし、学習を振り返る。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のめあてに沿って学んだことをワークシートに記入し、発表させる。</li> </ul>	
<p style="text-align: center;">〈表れてほしい児童の意識〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>感じたことと音楽のものは今まで別だと思っていたけど、関わりがあるのだな。</li> <li>同じことを聴き取っても、人によって想像する場面が違うのは面白いな。</li> <li>友だちの考えを聞いて、曲のおもしろさに気付いたよ。もっと聴きたいな。</li> </ul>			